峡南教育事務所Newsletter

かけはし

第２００号
２０２５年11月発行

発行：峡南教育事務所
教育支援スタッフ（地域教育担当）

南巨摩郡富士川町鰍沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPからも御覧になれます。(QRコード)

南巨摩合同庁舎(合庁)

目次：

ことぶき勧学院祭　開催　1
思春期体験学習　峡南地域各中学校　2
峡南地域　秋の催し　大門碑林全国書道展　秋のお茶会　3
太鼓フェスティバル　身延町総合文化祭　アルカディアフェスタ　4
祝「かけはし」200号発行

第３９回　ことぶき勧学院祭　開催！
テーマ『勧学院祭　笑顔で作る　一つの輪』

十月十七日(金)に、YCC県民文化ホールにて、県内六教室の一・二年生、約２４０名が一堂に会し、第三十九回ことぶき勧学院祭が『勧学院祭 笑顔で作る 一つの輪』のテーマのもとに開催されました。今年度は、甲府工業高校・應援團による援舞を皮切りに、ダンスや歌をはじめ、和太鼓演奏、朗読劇など、どの教室もそれぞれに工夫を凝らした発表を披露し会場を沸かせました。

二年生
朗読劇　『月桃の花の下で』
歌　『月桃の花』

二年生は、昨年度の朗読劇『かぼちゃの種が』で「平和の種」を蒔きました。今年は戦後八十年の節目にあたり、六月に訪れた沖縄慰霊の旅や青洲高校・音楽部との交流から、新たな朗読劇『月桃の花の下で』を作りあげました。高野先生・中先生のご指導のもと、自分たちの思いを熱く語り合うなかで、「平和の実」を実らせようと一丸となって練習に取り組みました。

ステージでは、普段の教室の和気藹々とした雰囲気を再現しながら、平和についての思いを語り合い、最後に「平和とは何か？」を観客に問いかけるという素晴らしい発表でした。終演後にホワイエに集った二年生の表情には、やりきったという達成感と自分たちらしいやり方で「平和の実」を結ぶことができたという充実感に溢れていました。

一年生
和太鼓　『かがり火太鼓』
『富士川太鼓』
フォークダンス
『オクラホマミクサー』
『タタロチカ』

舞台発表で前半のトリを務めたのは峡南教室一年生の発表でした。佐野学級長によるエールで観客の心を一気につかみ、『かがり火太鼓』の演奏に入りました。タイトルに合わせてバチには炎を模した装飾がされており、見た目にも華やかな演奏を披露しました。二曲目の『富士川太鼓』では、動きのなかで太鼓を打つ場面のある難曲ですが、練習の成果を発揮し、力強い太鼓の音を会場に響かせました。

続けて、今年はフォークダンスにも挑戦しました。懐かしの『オクラホマミクサー』に加え、ロシアのタタール地方の踊りである『タタロチカ』を踊りました。県フォークダンス連盟の方々の指導もいただき、当日は皆が色鮮やかなスカートを纏って軽やかなステップを披露しました。カツラとサングラスでキメていた(？)男性陣もおり、峡南教室の楽しい雰囲気を会場のみなさんに届けられたのではないかと思います。みなさんの発表は、掛け声どおり、まさに「ヤクシー！(タタール語で「素晴らしい」の意)」でした。

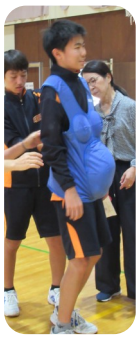
11月も中旬を過ぎ、朝晩の寒さが身にしみる時期となりました。夏はますます暑くなる気配を見せていましたが、それでもちゃんと冬はやってきますね。季節の移り変わりを楽しめるのは、四季のある日本の良さだと改めて感じる今日この頃です。

峡南地域中学校 思春期体験学習

峡南地域では、平成十一年度より町の保健師、助産師の方が中心となり、各中学校の三年生を対象に思春期体験学習を行っています。この学習の目的は、乳児とのふれあいや講義、妊婦体験等を通して『妊娠・出産・育児』『ＬＧＢＴＱ』『命の大切さ』等について学ぶことです。今年度は、六月・七月に富士川中学校（第１９８号に掲載）で実施され、十月から十一月にかけて、他の各中学校でも行われました。

市川中学校（十月八日）

体育館にて、３校時に町の保健師さん・助産師さんによる「生命について」の講義があり、４校時は実習班ごとに分かれて妊婦体験と赤ちゃん人形を使用してお世話のシミュレーションを行いました。５校時には、８組のお母さんと赤ちゃんに来校いただき、音楽室と視聴覚室に分かれて、実際に赤ちゃんとのふれあい体験を行いました。生徒たちは、最初は緊張した面持ちで抱っこにも苦労していましたが、最後には赤ちゃんを上手にあやすことができるまでになった生徒も見られました。



最後の感想発表では、生徒から「赤ちゃんを育てる責任の重さを感じた」といった言葉も聞かれました。

三珠中学校（十月九日、十五日）

九日の３、４校時に、体育館にて、事前学習とプレ実習を行いました。事前学習では、町の保健師さんから市川三郷町の出生数など現状をうかがい、生命の誕生や、中学生に考えてほしいことなど複数のテーマについてお話がありました。プレ実習では妊婦体験や人形を用いた赤ちゃん抱っこシミュレーションを行いました。

十五日は２、３校時を使い、体育館にて、３組のお母さんと赤ちゃんを招き、赤ちゃんふれあい体験を行いました。最初に町の保健師さんから、ふれあう際の注意事項を説明してもらい、３班に分かれて体験を行いました。

最初はおとなしかった赤ちゃんも、お腹が空いたのか、途中から泣き出してしまう様子がみられ、お母さんから「ミルクを与えてみては」という提案があり、抱っこしながらミルクをあげるという体験ができた生徒もいました。最後の感想発表では、「赤ちゃんがこんなにかわいいということを初めて感じた。今後は周りの人たちに優しく接していきたいと思う」といった感想が聞かれました。

早川中学校（十月十日）

第一部では、健康科学大学・産前産後ケアセンターの助産師・吉田悦子さんを講師に招いて「いのちの学習」と題した講演を全校生徒で聞きました。真剣な表情で講師の話に耳を傾け、「性について考えることは、自分の命を大切にすることでもあり、他人の命を大切にすることでもある。そして、その先にある命のつながりも大切にすることになる」という吉田さんのお話は生徒の心に響いたことだと思います。

第二部では、町の保健師さんから、「保健師」の仕事について説明があり、赤ちゃんの成長の仕方とふれあう際の注意点についてお話がありました。その後、早川町在住の２組のお母さんと赤ちゃんとともにふれあい体験を行いました。

事後アンケートでは、「妊婦体験では重くて、妊婦さんがとても苦労しているということを知ることができた」や「将来について考えるきっかけになった」といった感想が寄せられました。

身延中学校（十月十五日、二十一日）

十五日は、ｒｉｃｏｒｉｎｏいのちの教室の福田紀恵さんを講師に招き、「中学生に伝えるいのち」というテーマで講演いただきました。福田さんは「心を大切に、体を大切にして、自分と他者の未来を大事にしてほしい。これまでたくさんの愛をくれた親や周囲の人にも感謝の気持ちを持って」とメッセージを送りました。

二十一日には、プレ実習と赤ちゃんふれあい体験を実施しました。人形での練習を経て、実際に赤ちゃんを抱っこしてみましたが、なかなか泣きやまずに対応に困ったり、腕の中で伸びをする赤ちゃんの扱いに苦労したりする姿が見られました。実際に体験することで、赤ちゃんのお世話の大変さを身にしみて感じたようです。

南部中学校（十月二十四日）

最初にr・i・c・o・r・i・nの福田紀恵さんから、妊娠から出産までの過程と「性とは何か」というお話をしていただきました。その後、妊婦体験、人形を用いたおむつ交換等の練習を行い、実際に赤ちゃんとふれあいました。学校開放日のため、保護者の方も数名来校し、生徒と一緒に講義や実習を見学されていました。南部町では、町の保健師五名に加え、地域の人々の健康作りを目標に活動している住民団体「愛育会」の方が七名来校され、実習のサポートをしていただきました。南部町では、町全体でこの思春期体験学習の実施を支援している様子がうかがえました。

六郷中学校（十月三十一日、十一月五日）

三十一日は町の保健師さんと助産師さんから、町の超高齢化や少子化の問題と、生命の誕生についてお話していただきました。その後、妊婦体験と人形を用いたお世話体験も行い、生徒からは「短時間でも大変なのに、お母さんは二十四時間、毎日この状態なのは本当にすごい」といった声が聞かれました。十一月五日は、町のふれあいセンターにて、赤ちゃんとのふれあい体験を行いました。生徒たちは、人形ではわからなかった、実際の赤ちゃんの「命の重み」をその両腕に強く感じたようで、感想発表ではこのような機会を持てたことに感謝の言葉が述べられました。

各町の保健師さん・助産師さんの尽力と妊婦さんや赤ちゃんとその保護者の方々の協力により、今年度も各中学校で思春期体験学習を行うことができました。この取組を通じて、生徒たちは、あらためて自分や他者の生命の大切さに気づき、自分を育ててくれている保護者や周囲の人に感謝の気持ちを持つとともに、「親になること」の意味と責任についても考えられたのではないかと思います。

第31回 大門碑林全国書道展（市川三郷町）

十月二十六日（日）に、市川三郷町のひらしお源氏の館にて、大門碑林全国書道展の表彰式が行われました。今年で三十一回を数え、県内外より２６１３点の作品が寄せられました。会場内には応募された全作品が壁面を埋め尽くすように展示されており、その壮観な眺めに来場者は目を見張っていました。表彰式では、幼児から一般までの上位入賞者八十名の表彰が行われ、賞状や盾が受賞者に手渡されました。

市川三郷町では歴史ある紙の町にふさわしい書道文化の向上を図るという目的で、これまで長きにわたって本書道展が開催されてきました。しかし、町の事業見直し等のため、残念ながら今回が最後の開催となりました。

作品展示はすでに終了していますが、この大会は県と四川省の交流事業である「第６回大千富士日中青少年書画展」を兼ねているため、年明けの令和八年一月二十七日から二月一日まで、山梨県立美術館にて開催される同展示会にて、幼児から中学生までの入賞作品を楽しむことができます。

秋のお茶会（早川町）

十月十八日（土）に、早川町の※重要伝統的建造物群保存地区にある赤沢宿の「宿の駅　清水屋」にて、秋のお茶会が開かれました。このお茶会は、一昨年に始まり、毎年、年二回のペースで開催されており、今回で六回目の開催となりました。

呈茶は、青洲高校の茶道部の部員によって行われ、午前十時から先着五十名にお菓子と抹茶が無料で振る舞われました。部員たちは日頃の練習の成果を発揮して、見事なお点前を披露し、参加者からお褒めの言葉をいただいていました。参加者の中には地元の方々だけでなく、県外から観光に訪れて偶然立ち寄られた方もおり、秋らしい爽やかな気候の中、歴史の趣を感じさせる建物での一服を満喫されていました。

※重要伝統的建造物群保存地区とは…

昭和五十年の文化財保護法改正で制度化され、市町村が国の選定・支援を受けながら、歴史的な集落・町並みの保存に取り組んでいる地区のこと。早川町の赤沢宿は、平成五年七月十四日に指定を受けた。令和六年八月十五日現在で、全国で一〇六市町村・一二九地区が選定されている。

太鼓フェスティバル（富士川町）

十月二十六日(日)、はくばく文化ホールにて、富士川町太鼓フェスティバルが開催されました。この催しは、山梨県太鼓連盟との共催で、「第33回山梨県ふるさと太鼓まつり」と「第28回日本太鼓ジュニアコンクール県支部大会」を併せて実施されました。県内の太鼓同好会や保存会など7団体が出演し、揃いの法被やTシャツといった装いで、ホール内に力強い太鼓の音を響かせました。太鼓は耳で聞くのではなく、体で聞くものと思わせる迫力で、観客も曲に合わせて手拍子で応じるなど、生演奏の素晴らしさを再認識させられました。各地域の太鼓文化がこのような催しを通じて、これからも末永く伝承されていくことを願います。

身延町総合文化祭（身延町）

十月十九日(日)に、総合文化会館にて、「芸能発表会」が開催されました。地元の二十三の団体と個人、総勢１２５名がステージ上で日頃の練習の成果を披露しました。バンド・オカリナや大正琴・合唱等の音楽の発表から、神楽・フォークダンス・日本舞踊など多彩なパフォーマンスが行われ、観客を楽しませていました。

昼には南部町出身の落語家・柳亭市松さんによる落語もあり、最後には景品が当たる抽選会も行われました。地域の方々にとって、まさに「芸術の秋」を堪能できる一日となりました。

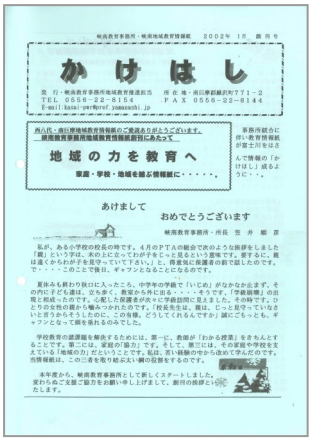
アルカディアフェスタ２０２５（南部町）

十月十二日(日)に南部町のアルカディア総合公園にて、「アルカディアフェスタ２０２５」が開催されました。最初に、小中学生を対象に募集した「家庭の日」啓発活動のための「標語・作文・ポスター」の入賞者の表彰と、南部町出身者でスポーツの分野で活躍した人を称えるスポーツ協会・特別賞の受賞者の表彰が行われ、家族や学校の先生、指導者等が見守るなか、入賞者は賞状を授与されました。その後、スポーツ・文化の各ブースでの様々なアトラクションや南部町の伝統芸能である白鳥太鼓の実演、初代やまなし防犯大使のシンガーソングライター伸太郎さんのミニライブなどが行われ、秋の爽やかな晴天のもと、催しを楽しむ多くの家族連れの姿が見られました。

祝『かけはし』２００号発行

本誌『かけはし』は、今号の発行をもって**創刊から２００号**となりました。そこで、今号では、過去の『かけはし』を掘り起こし、その内容を振り返ってみたいと思います。

記念すべき創刊号は、今から二十三年前の２００２年（平成十四年）一月に発行されました。「地域の力を教育へ　家庭・学校・地域を結ぶ情報紙に…」というスローガンが冒頭に掲げられ、その脇には、「事務所統合に伴い教育情報紙が富士川をはさんで情報の**「かけはし」**と成るように…。」と書かれており、これが誌名の由来かと思われます。（ちなみに、平成十二年度までは、西八代教育事務所と南巨摩教育事務所の二つの教育事務所が存在していましたが、平成十三年度から統合されて峡南教育事務所となり、現在に至っています）記事には峡南高校、増穂商業高校、五開小学校といった今では懐かしい学校名が並んでいました。**（左の写真が創刊号）**



峡南教育事務所・峡南地域教育情報紙　２００２年１月　創刊号

かけはし

発行：峡南教育事務所地域教育支援ｾﾝﾀｰ　所在地：南巨摩郡富士川町最勝寺771-2
TEL：0556-22-8154　FAX：0556-22-8144
E-mail：katai-yet@pref.yamanashi.jp

高校生・高校野球関係者等様々のご関係者の方がおられます。
峡南教育事務所地域教育情報紙が富士川をはさんで情報の「かけはし」成るように・・・・

事務所統合に伴い教育情報紙が富士川をはさんで情報の「かけはし」成るように・・・

地域の力を教育へ
家庭・学校・地域を結ぶ情報紙に・・・・・

あけまして
おめでとうございます
峡南教育事務所・所長　笠井　顯　著

私が、あるＰＴＡの総会で次のような挨拶をしました。「最」という字は、木の上に立ってわがやをじっと見ているという意味です。要するに、最は遠くからわがやを見守っていてＴＡＮＩＫＩ。教育現場に関連する前で話したのです。・・・・・このことで後日、ギャップとなることになるのです。

夏休みも終わり秋にひとハったころ、中学年の学級で「いじめ」がかなりかと言ずで、その内に子どもを通は、ひたすら、教室から外に出る・・・・そうです。「学級崩壊」の出現と戦慄ったのです。心配した保護者が高々に学級訪問に見えました。その時です。ひとりの女性の顔から輝みつかたのです。「校長先生は、最は、じっと見守っていなさいと言うからそうしたのに、この有様。どうしてくれるんですか！誠にごもっとも、ギャフンとなって頭を掻れるのでした。

学校教育の諸課題を解決するためには、第一に、教師が「わかる授業」をきちんとすることです。第二には、家庭が「協力」です。そして、第三には、その家庭や学校を支えている「地域の力」だということです。私は、若い経験の中から改めて学んだのです。当懸報紙は、この三者を取り結ぶ大い鋼の役割をするのです。

本年度から、峡南教育事務所と一緒にスタートしました。
変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げまして、創刊の挨拶とさせたします。

今号と同じく切りのいい１００号はどうだったのか、こちらについても調べてみました。発行は２０１０年（平成二十三年）八月で、峡南農務事務所との連携事業として行われた「田んぼの生き物調査（富河小、下山小、増穂西小）」の記事や市川高校のバスケットボール部が市川三郷町役場を訪れ、インターハイの出場権獲得を町長に報告した記事などが掲載されていました。**（左の写真が１００号）**

峡南教育事務所・峡南地域教育情報紙　第１００号（２０１１年８月）

かけはし

発行：峡南教育事務所地域教育支援ｾﾝﾀｰ　所在地：南巨摩郡富士川町最勝寺771-2
TEL：0556-22-8154　FAX：0556-22-8144
HPでもご覧になれます。URL：http://www.pref.yamanashi.jp/fyochiku-ek/index.html

＜地推協＞　峡南地域教育推進連絡協議会　新会長挨拶

前会長　千頭聡理会長

7月8日に峡南地域教育連絡協議会の総会が実施され、23年度の会長として重責に選任されました。4年の新会長として、力をかけて役責を担う、地域の皆さんのご協力をとおりながら年間峡南地区の地域教育推進のために努力していく所存です。よろしくお願い申し上げます。

今、わが国の状況は少子化、高齢化、国際化、情報化など社会の変化が著しく進み、大人や子どもの考え方、価値観、行動、生活スタイルなどが様変わりしてきています。特に未来社会として地域における人々の絆が弱くなってしまったと言われて久しくなりました。ここ、峡南の地においても大小いろいろその事象が出ていることを否めることはできません。

身延町の大河内地区では、平成23年に町民の手者で公開する講演講演会を実施いたしました。その中で、地域の子どもたちも、さらに手でなかなかに、どんなに優れた応援団が来たとすると言う間に、41%の人が「自分の子どもも地域の子どもも、みんなで育てる意識を持つべきだ」と考え、27%の人が「大人自身が常に挨拶、子どもたちに本来を示すべきだ」と考えています。また、「子どもを優やかに育てるために、地域でどんなことをすればよいか」という問には、38%の人が「他人の子どもをかるにたとの地域にする」と考え、28%の人が「自分など地域の行事や活動にできるだけ子どもを参加させる」と考えています。

このような調査結果から、地域で子どもに触れ合い地域で子どもの育成に参加するべきであると住民の多数の方が考えていることが分かりました。

平成17年に峡南地域教育推進連絡協議会が設立され、今年では中６６年目を迎えました。この協議会は「少子化、核家族化、人々のつながりや共同意識の希薄化などにより、家庭や地域を取り巻く教育環境が変化してその教育力が低下していると言われている。そのなかで幅広の家族や地域で生あの子育て支援などが必要性が高まっており、子どもの健やかな成長のための家庭、学校、地域がそれぞれ役割と責任を果たして連携協力していくことが、ますます求められている。」という方々などに編み設立されました。

そして協議会ではこれまで様々な連絡講演会、峡南教育事務所と連携して、地域教育フォーラム、長野県連携セミナー、子育て学習会、地域教育情報紙「かけはし」の発行などの地域の教育環境や社会問題に関する啓蒙、実践活動を行ってきました。この会のそれぞれの活動は、教育機関、行政機関、並びに構成団体や地域住民のカ＆ハの連携、理解、協力によりその目的を達成されてきました。

今年度も、積み上げてきた成果を基に「地域教育フォーラム」等の学習機会の提供、「長野県・地域連携事業」による地域の連携・交流の活性化、「ふれ合い」の発行による情報の発信、「教育相談パンフレット」の作成などによる充実を図りその相談の援助活動等を計画しております。

最後に、関係各位のご指導ご鞭撻をいただきまして、この協議会の活動がますます発展し推進されますようお願い申し上げます。

かけはし１００号の概要
p1　峡南地域教育推進連絡協議会長挨拶
p2　教育推進事・地域連携による教育相談パンフレットの作成などによる充実
p3　峡南地区活性化研究所及び峡南大会開催
・市川三郷町「ふれ合い」の発行
・身延町の様子を GET（出前授業）
p4　シリーズ　峡南地域の教育紹介
Information Box

- 1 -

今回、あらためて創刊からの二十数年を振り返ってみますと、その間に起きた「平成の市町村大合併」や学校の統廃合など、社会の変化にあわせて、本誌「かけはし」の記事にも幾多の変遷があったことがうかがえました。

時は刻々と過ぎ、社会は移り行きますが、『かけはし』はこれからも地域の教育情報誌として、峡南地域の「今」を伝え続けていきたいと思います。